

# 使用上の注意点

(Alert Notes)

## SunOS 版 SAS システムリリース 6.12(TS060)

「使用上の注意点(Alert Notes)」は、インストール前あるいはソフトウェアを使う上において、知っておく必要のある問題点を列挙しています。不明な点がございましたら、SAS インスティテュートジャパン・テクニカルサポート(TEL:03-3533-3877 受付: 9:00-12:00,13:00-17:00)までご連絡ください。

### 目次

インストレーション .....	2
Base SAS ソフトウェア .....	5
SAS/EIS ソフトウェア .....	8
SAS/ETS ソフトウェア .....	8
SAS/FSP ソフトウェア .....	9
SAS/IML ソフトウェア .....	9
SAS/STAT ソフトウェア .....	9
SAS/ACCESS ソフトウェア ORACLE インターフェース.....	11
SAS/ACCESS ソフトウェア INGRES インターフェース.....	11
Solaris2.6 上で使用する場合の注意点.....	12
修正モジュールの提供に関するご案内 .....	13

## インストレーション

- ほとんどの OS 上での最新の SAS システムは 2000 年問題に対応しておりますが、この注意をお読みになって、正しい対応をしていただき、SAS システムを利用したプログラムやアプリケーションが 2000 年以降の日付も正しく扱えることを確実にしてください。

(リリース 6.04 以降の) SAS ソフトウェアは、2 桁で表された西暦の上位 2 桁を決定するために YEARCUTOFF= オプションを使用します。例えば、YEARCUTOFF=1900 と設定されると、SAS アプリケーションでは、2 桁の年は 1900 年から 1999 年の年として扱われます。YEARCUTOFF=1950 と設定されると、50 から 99 の間の年は 1900 年代、0 から 49 の間の年は 2000 年代として扱われます。

(リリース 6.04 以降の) SAS ソフトウェア バージョン 6 では、各サイトの SAS ソフトウェアの管理者が設定を変更しない限り、YEARCUTOFF= の初期値は 1900 です。よって、SAS ソフトウェアで扱われる 2 桁の年は、全て 1900 年代のものとして扱われ、2000 年 1 月 1 日以降の日付が 2 桁の年によって表された場合、誤った結果を戻す可能性があります。2 桁の年の正しい処理をするためには、YEARCUTOFF=オプションの値を確認して、必要ならば変更してください。YEARCUTOFF=オプションの値を確認するためには、SAS システムを起動して下記のステートメントをサブミットしてください。

```
PROC OPTIONS OPTION=YEARCUTOFF;  
RUN;
```

YEARCUTOFF=オプションの値が LOG ウィンドウに表示されます。もし YEARCUTOFF=オプションの値が 1900 となっている場合、値を 1920 から 1950 の間に変更することをお勧めします。適正な値は SAS アプリケーションで処理するデータの日付の期間によって決まります。もし 2020 年以降の日付値を扱わない場合、YEARCUTOFF=1920 と設定することができます。もし SAS システムで 2020 年以降の日付値を扱う場合は、YEARCUTOFF=の値を、1930 や 1950 等の高い数値に設定してください。YEARCUTOFF=の初期値を変更する方法は、(他のシステムオプションと同様に)オペレーティングシステムによって変わります。ご使用のオペレーティングシステムの「使用の手引き」マニュアルを参照してください。

また、SAS システムの管理者や SAS コンサルタントが、各サイトのユーザーに YEARCUTOFF の初期設定を伝えることをお勧めします。ユーザーに伝える簡単な方法は、NEWS システムオプションを使用して、LOG ウィンドウに情報を表示する方法です。NEWS オプションの詳細は、ご使用のオペレーティングシステムの「使用の手引き」、又は SAS システムのオンラインヘルプを参照してください。

YEARCUTOFF=オプションの働きや、適正な値の求め方についてのその他の詳細は弊社のウェブサイトにある「A Guide to the YEARCUTOFF= Option」を参照してください。

<http://www.sas.com/techsup/download/technote/ts618.html>

ウェブサイトへのアクセスが不可能な場合は、上記の文書のコピーを差し上げますので、弊社テクニカルサポートグループ(03-3533-3877)までご連絡ください。通常どおり、弊社では最新バージョンのSASシステムをご使用なさることをお勧めいたします。弊社のウェブページに、SASソフトウェア製品における2000年対応についての全ての情報がございます。

<http://www.sas.com/y2k>

- TS050またはTS060にアップグレードされたSASシステムに新しいSASプロダクトを追加する時は、SASプロダクトの追加後に、必ずメンテナンスを再適用してください。もし再適用しなかった場合、SASシステムのメンテナンスの不一致が起こります。そのようなSASシステムを稼動すると、予期できない結果を招きます。インストールプログラム sasmanager を実行し、以下の手順でメンテナンスを再適用します。詳細はインストレーションガイドを参照してください。
  - Invoke Custom Installation and Utilities...
  - Invoke SAS Installation Utilities...
  - Apply Special Tech Support Fixes (supplied with SAS Notes)
- International Support メニューで Japanese または Japanese SJIS のどちらかひとつだけ選択した場合、後のメニューでデフォルトの言語を選択したときに、以下のようなエラーメッセージが出力されますが、インストレーションおよび動作に支障はありません。そのままインストレーションの処理を進めてください。

Choose the default language for the production level:

- \*1. DBCS without language files
- 2. Japanese and DBCS files
- 3. English
- 4. Cancel

(Enter h for help)

Which option? [1] 2

Applying new setinit information...

What is the pathname of your setinit program? [/usr/lib/sas612/setinit.sas]

Is /usr/lib/sas612/setinit.sas correct (y/n)? [y]

Error: An error occurred while applying the setinit information.

Please check log file /usr/lib/sas612/setinit\_japanese.secondary\_encoding.log for messages.

- Solaris 1(SunOS 4.1.x)上でSASシステムリリース6.12を使用する場合は、インストール終了後sas612/config.sas612.japaneseファイルの中の-fsimmopt オプションを次のように変更してください。

変更前-fsimmopt motif

変更後-fsimmopt saswujm4

この処理を行わずにSASシステムを起動すると、以下のようなエラーメッセージがターミナルに出力されます。

```
ERROR: IMM server 'saswujms' not found.
```

- SASシステムリリース6.12をSunOS4.1.1~4.1.3のシステムにインストールした場合、インストールの途中およびインストール後のSASシステム起動時に以下のような警告が表示される場合があります。

```
ld.so.warnings: /usr/lib/libc.so.1.x has older revision than expected 9
```

このメッセージが表示されるときには、いくつかのSASシステムのプロセスが正常に動作しない事がありますので、次のコマンドを実行してください。

```
# cd /usr/lib
```

```
# ln -s libc.so.1.x libc.so.1.9
```

```
# /usr/etc/ldconfig
```

注意: xのところには実際に警告メッセージで出力された番号に置き換えてください。

- Solaris2.6、Solaris7、Solaris8上でインストールを行う際、次の様なメッセージを出力し、

sasmanager が起動できない場合があります。

```
sasmanager: 1: parameter not set
```

この問題を回避するには、以下の手順にて sasmanager を修正してください。

- 1) シェルプログラム sasmanager を適当なテキストエディタで開きます。
- 2) 471~484 行目にあたる部分を以下のようにコメントアウトして、さらに一行追加します。

```
#set `ps -f 2>&1 | grep sasmanager` >> /dev/nul l
#i f [ "$?" != 0 ] ; then
# set `ps -u 2>&1 | grep sasmanager` >> /dev/nul l
# i f [ "$1" = "" ] ; then
# set `whoami 2>&1` >> /dev/nul l
# i f [ "$1" = "" ] ; then
# set `who am i 2>&1` >> /dev/nul l
# i f [ "$1" = "" ] ; then
# set "nobody"
# fi
# fi
# fi
#fi
#useri d="$1"
useri d=root <== 最後にこの一行を追加して下さい
```

(注) useri d= には、SAS をインストールするユーザIDをセットして下さい。

(注) sasmanager を編集するためには権限が必要な場合があります。

## Base SAS ソフトウェア

- Solaris 2 上で SAS システムを使用する場合は、起動前に環境変数 LD\_LIBRARY\_PATH に /usr/openw i n / l i b および /usr/dt / l i b を設定してください。

(例) csh の場合

```
setenv LD_LIBRARY_PATH ${LD_LIBRARY_PATH}:/usr/openw i n / l i b : /usr/dt / l i b
```

これらのディレクトリ名が設定されていない場合は、SAS システム起動時に以下のエラーメッセージが出力され、SAS システム中で日本語を入力するための IMM ウィンドウが表示されなくなります。

```
ld.so.1: /usr/lib/sas612/dbcs/sasexe/saswujms: fatal: libXm.so.3: can't
open file: errno=2
```

- SunOS 4.1.x 上では、Helplus, xsassm など SAS システムのツールが正常に動作しない場合があります。この現象は SAS システムが exec システム関数を呼び出そうとしたときに発生するもので、以下のエラーメッセージが標準出力に出力される場合もあります。

```
ERROR: Unable to execute !sasroot/<path>/motifxsassm
```

また、メッセージを出力しないで予期しない動作をすることもあります。例えば、Helplus の代わりに CBT エントリ形式のヘルプが表示される、などの現象です。

この現象は SUN のバグとしてレポートされています (bug id: 1178363)。この現象は、SunOS5.x (Solaris2) では発生しません。SUN のドキュメントには、このバグに対するパッチは用意されていないと記述されています。この現象は、使用されない環境変数をいくつか定義することにより解決される場合もあります。

(例)

```
% setenv LetsCreateOneBigEnvironmentVariable False
% setenv LetsCreateOneMoreEnvironmentVariable True
```

新たに定義する必要がある環境変数の数と長さはサイトごとの環境に依存します。

- ホスト印刷機能につきましては、日本語版での提供が行われていないため、お使い頂くことが出来ません。
- SAS システムリリース 6.12 を X ウィンドウ環境で起動すると、以下の警告メッセージが出力される場合がありますが、動作上問題はありませぬ。

```
ld.so.1: /usr/lib/sas612/sas.sol2: fatal: relocation error: symbol not found:
_XIcDefaultMapModifiers: referenced in /usr/openwin/lib/local_e/ja/XLIBI18N/x
```

libi18n. so. 1

Warning: locale not supported by Xlib, locale set to C

- X ウィンドウ環境で SAS システムを使用する場合、他の X アプリケーションとの間で文字列のカット & ペーストが正常に行えない場合があります。
- CDE1.0(Solaris2.5、AIX4.1 以上など) が動作するシステムでは、論理フォント名に「-dt-application-」「-dt-interface system-」「-dt-interface user-」を含むフォントを提供しています。SAS システムでこれらのフォントを使用するように変更しても、その設定を保存することができません。この現象を回避することはできません。
- オンライン・ドキュメントやヘルプ項目を印刷する新機能を利用する場合、PCL ドライバを用いてプリンタに出力することはできません。PostScript ドライバを使用することで、この問題を回避できます。
- RANPOI 関数の乱数生成において、(7, 85) の範囲にある非整数値の平均をもつポアソン分布の乱数を生成した場合、不正な値を出力します。この問題を回避するには、非整数値の平均を整数部分と小数部分に分離し、2 つのポアソン乱数を生成した後に、これらの乱数を足し合わせてください。例えば、平均が 8.2 であるポアソン乱数を生成する場合、下記のように行ってください。

```
x1=ranpoi (seed, 8);  
x2=ranpoi (seed, .2);  
x=x1+x2;
```

- RANBIN 関数は、特定の条件下で誤った結果を戻す場合があります。RANBIN 関数の第 2 引数 (N) が正確には整数でなく、 $1 - 1e-12 \leq N < 1$  (1 が整数の時) の範囲に入っている場合、RANBIN は N - 1 を誤って第 2 引数としてしまいます。

たとえば、次のプログラムは、変数 right には正しい値 12 を戻しますが、変数 wrong には誤った値 11 を戻します。

```
data _null_;  
  n=12;  
  wrong=ranbin(12345, n - .000000000001, .99999999);  
  right=ranbin(12345, n, .99999999);  
  put wrong= right=;
```

```
run;
```

この問題は RANBIN 関数の第 2 引数が DATA ステップで計算された場合に起こる可能性が高くなります。この問題を回避するためには、INT 関数を第 2 引数に適用してください。上記の例では、wrong の計算を下記のように変更してください。

```
wrong=ranbin(12345, int(n - .0000000000001), .99999999);
```

- SAS を X 環境、DMS モードで起動した場合、コンソールに以下のようなエラーが発生することがあります。

```
Warning: translation table syntax error: Unknown keySYM name: DeleteLine
```

```
Warning: ... found while parsing 'Lock<Key>DeleteLine: sas-delete()' '
```

```
Warning: String to TranslationTable conversion encountered errors
```

また、一部の X-Server ではキー入力が出来なくなることがあります。

この問題は、Solaris の上位バージョン (Solaris 2.6、Solaris 7、Solaris 8) では、一部のキー定義に互換性が失われているためと思われます。この問題を回避するためには、SAS が提供する XKeysymDB を使用するように設定変更を行っていただくか (インストレーションガイド参照) もしくは、OS 付属の XKeysymDB に以下のエンTRIES を加えてください。

```
対象ファイル: /usr/openwin/lib/XKeysymDB
```

```
追加するエンTRIES: DeleteLine :1000FF71
```

## SAS/EIS ソフトウェア

- グラフ対比分析レポートオブジェクトでは、初めのサブグループの棒グラフの棒のカラーが誤って表示される場合があります。この現象は、グラフ内に良好、不調の両方の棒が存在する場合に発生します。例えば、不調時のカラーで表示されなければならないものがいくつか含まれているのに全ての棒が良好時のカラーで表示されることがあります。

## SAS/ETS ソフトウェア

- MODEL プロシジャにおいて、 $y = -a + b \cdot x$  のように切片パラメータに負の符号を付けたモデル式を指定し、GMM 法で推定した時に、間違った結果が出力されたり収束しなくなる場合があります。この問題を避けるには、切片パラメータに対する符号が負にならないようにモデル式を指定して下さい。

- MODEL プロシジャにおいて、WEIGHT ステートメント、あるいは\_WEIGHT\_変数を用いて大身付きの推定を行い、FIT ステートメントの CHOW オプションによってチョウ検定を行った場合、その検定統計量および p 値は不正な値になります。したがって、チョウ検定の統計量および p 値は欠損値、あるいは誤った数値として出力されます。

## SAS/FSP ソフトウェア

- FSVIEW プロシジャでウィンドウに入りきらないような長さの文字変数の値を更新した場合、更新後の値の長さはウィンドウに表示されている長さになります。  
この問題を回避するには、FSEDIT ウィンドウを使用してください。

## SAS/IML ソフトウェア

- ODE ルーチンにおいて、2次元以上の問題を解く場合、ヤコビ行列を「jacobian」にオプション指定した時、ステップ幅が誤って計算され、正確な値が得られないことがあります。この問題を回避するには、ヤコビ行列を指定しないで、ODE ルーチンを実行して下さい。

## SAS/STAT ソフトウェア

- NLIN プロシジャにおいて、特殊変数\_WEIGHT\_の導関数(と DUD 法で用いられる差分)は、パラメータに関して計算されません。すなわち、変数\_WEIGHT\_がパラメータの関数であったとき、目的関数(SSE)の勾配やヘシアンには寄与しません。反復再重みつき最小二乗法(IRLS)を実行するときには、この反復計算は適切です。ユーザー指定の損失関数を使った推定を実行したいときには、この反復計算は適切ではありません。
- PHREG プロシジャにおいて、MODEL ステートメントに OFFSET オプションを指定した場合、BASELINE ステートメント OUT オプションで出力される値は、オフセット変数を含まない形で算出されます。また、OUTSTAT オプションで出力されるデータセットには、オフセット変数に対するパラメータ推定値は、出力されません(なお、オフセット変数に対するパラメータ推定値は1です)。
- NLIN プロシジャにおいて、BOUNDS ステートメントを指定した場合、収束基準に達していなくても、それに達した旨のメッセージが出力され、反復計算が終了してしまうことがあります。反復履歴を調べて、実際に収束条件を満たしているかどうかを確認してください。

- CATMOD プロシジャの REPEATED ステートメントにおいて、2 つ以上の被験者内要因が指定されており（例： REPEATED TIME 2, TRIAL 2; ）かつ、MODEL ステートメントにおいて、被験者間要因と被験者内要因との交互作用が指定されていた場合（例： GROUP\*\_RESPONSE\_）、分散分析表（"Analysis of Variance Table"）における交互作用に対する検定が誤った値になります。また、WLS 推定値の表（"Analysis of Weighted-Least-Squares Estimates"）において、パラメータ推定値が（値は正しいのですが）誤った順番で表示されます。CATMOD プロシジャによって作成されるデザイン行列の各列ベクトルは正しいのですが、（被験者内と被験者間の交互作用が2 つ以上の列を必要とする時）作成されたデザイン行列の各列は、WLS 推定値の表との順番とは異なる対応となっています。その結果、分散分析表の結果も誤ったものになります。デザイン行列を見て、どの列が交互作用になっているかを調べた後、CONTRAST ステートメントによって対比を指定すれば、正しい結果を得ることができます。この問題が生じていることは、REPEATED ステートメントの \_RESPONSE= オプションにおいて、被験者内要因の順番を変更することによって、検定結果が異なることによって確認できます。
- MULTTEST プロシジャにおいて、TEST ステートメントで FISHER を用いた時、もし、応答変数に指定された変数のいずれかに欠損値があり、かつ、CONTRAST ステートメントで定義されたグループに欠損値を持つオブザベーションが含まれている場合、OUT=オプションによって出力されるデータセットの変数\_X\_と変数\_Y\_が誤った値になります。なお、output ウィンドウに表示されている値のほうは正しいです。また、output ウィンドウおよびデータセットにおける他の統計量（p 値など）も、正しい値になっています。
- CALIS プロシジャ内で FACTOR ステートメントによって出力される因子得点を求めるための回帰係数（"Factor Score Regression Coefficients"）は誤っています。

正しい結果を得るためには、FACTOR ステートメントではなく、LINEQS ステートメントを使用して、潜在変数の得点を求めるための回帰係数（"Latent Variable Score Regression Coefficients"）を求めてください。

（ただし、FACTOR ステートメントで指定された因子分析モデルが尺度不変である時は、正しい値になっています。分散共分散行列をもとに推定を行なった時の標準化因子負荷量と、相関行列をもとに推定を行なった時の非標準化因子負荷量とが同じである時に、因子分析モデルは尺度に対して不変になっています。CALIS プロシジャにおいて、分散共分散行列をもとに推定を行なう時には COV オプションを指定します。COV オプションを指定しなかった場合には、相関行列をもとに推定が行なわれます）

## SAS/ACCESS ソフトウェア ORACLE インターフェース

- Oracle8 との接続確認は、以下の通りです。

- Solaris2.x では、リンク済みモジュールを使用しての接続が確認されています。

Oracle8 へのリンク済みモジュールは弊社のウェブサイト(<http://www.sas.com/techsup/download/maint/access/oracle/SOL2/6.12/sorav7.3.2.1.sol2.612>)にあります。これをダウンロードし、!sasroot/sasexe/dbi ディレクトリ(!sasroot は SAS をインストールしたディレクトリ)にコピーしたのちに、sasorav7 とファイル名を変更し、すべてのユーザに実行権限を与えてください。この場合、SASMANAGER を使用して、再度リンクする必要はありません。

Solaris2.6 では、Oracle8.0.3 のライブラリを使用してオンサイトリンクで作成したモジュールで接続することが可能です。

Oracle8 へのリンクスクリプトは弊社のウェブサイト(<http://www.sas.com/techsup/download/maint/access/oracle/SOL2/6.12/zdbi ora. ins. 7. 3. 2. sol 2. ts020>)にこれをダウンロードし、!sasroot/install にコピーし、zdbi ora. ins とファイル名を変更して SASMANAGER を使用して、リンクを行ってください。

## SAS/ACCESS ソフトウェア INGRES インターフェース

- INGRES のテーブルから datetime 値を読みこむビューディスクリプタを作成した場合、SAS システム上では異なる datetime 値になります。datetime 値は、タイムゾーンと夏時間の設定内容によって1またはそれ以上の時間異なってしまいます。

この問題は、タイムゾーンと夏時間が異なる場合に、OpenIngres クライアントが OpenIngres サーバーから datetime 値を正しく受け取ることが出来ないことに関係しています。

この問題は、SAS/ACCESS ディスクリプターと使用した場合にのみ起こります。

この問題を回避するためには、INGRES の `datetime` 値に対して SQL のパススルーの機能を使って読みこんでください。SQL パススルー機能を用いて正しく `datetime` 値を読み込むためには、最初に `II_DATE_FORMAT` を `finaland` に設定しなければいけません。

UNIX 上では環境変数を次のように設定します。

Korn shell の場合

```
export II_DATE_FORMAT=finaland
```

C shell の場合

```
setenv II_DATE_FORMAT finaland
```

## Solaris2.6 上で使用する場合の注意点

- Solaris2.6 上で SAS を起動した場合、デフォルトの X リソースファイルを使用すると、FRAME エントリのリージョンタイトルなどが文字化けして表示されることがあります。この問題は、DMS(ディスプレイマネージャシステム)で使用しているフォントのサイズを 17 ポイント以上にすることにより解決します。

## 修正モジュールの提供に関するご案内

SAS インスティテュートジャパンは、製品出荷後に発見された不具合に対する修正モジュールなどを次のサービスにより提供しています。

### 1. NIFTY-Serve SAS ステーション

GO SAS コマンドで SAS ステーションへアクセスし、[4. データライブラリ] [メンテナンスモジュール]を選択して、最新の修正モジュールを入手することができます。また、[4. データライブラリ] [ドキュメント]を選択して最新情報をご覧ください。

### 2. World Wide Web(WWW)

WWW ブラウザを用いて、SAS インスティテュートジャパンのホームページ (<http://www.sas.com/offices/asiapacific/japan>)にアクセスし、[テクニカルサポート] [FTP サービス] [FTP サービス - サーバに接続] [maint/]を選択して、最新の修正モジュールを入手することができます。また、[テクニカルサポート] [SAS FAQ]、[SAS HOW-TO]、[SAS Notes(Version 6)]などを選択して最新情報等をご覧ください。

### 3. Anonymous FTP サービス

ftp コマンドを用いて、米国 SAS Institute Inc. の FTP サーバ(ftp.sas.com)にアクセスし、/pub/webfiles/Japan/maint ディレクトリに移動して、最新のモジュールを入手することができます。ユーザID、パスワードは以下のように入力してください。

```
% ftp ftp.sas.com
ftp> Name(ftp.sas.com:userid) : anonymous
ftp> Password: お客様の E-mail アドレス
ftp> cd /pub/webfiles/Japan/maint
```

上記サービスをご利用頂けないお客様で、修正モジュールが必要な場合には弊社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

本文書の内容に関するお問い合わせは、弊社テクニカルサポートまでお願い致します。

### 株式会社 SAS インスティテュートジャパン

<b>本社</b>	〒104-0054 東京都中央区勝どき 1-13-1 イヌイビル・カチドキ 8F T E L : 03-3533-6921      F A X : 03-3533-6927
<b>大阪支店</b>	〒530-0004 大阪市北区堂島浜 1-4-16 アクア堂島西館 12F T E L : 06-6345-5700      F A X : 06-6345-5655
<b>九州営業所</b>	〒802-0001 北九州市小倉北区浅野 2-14-1 小倉興産 KMM ビル 3F T E L : 093-512-5014      F A X : 093-512-5016
<b>テクニカルサポート</b>	T E L : 03-3533-3877      F A X : 03-3533-3781

本文書の内容は予告なく変更されることがあります。

SASおよび米国 SAS Institute Inc.の他のすべてのプロダクト名、サービス名は米国 SAS Institute Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他本文中で使用しているシステム名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。